



結膜炎って?

まぶたの裏側にある粘膜「結膜」にウイルスや細菌が侵入したり、アレルギーなどの免疫異常によって炎症が起こる病気。

主に猫ウイルス性鼻気管炎(猫ヘルペスウイルス感染症)や猫カリシウイルス感染症などのウイルス感染症が引き金となって発症します。また、アレルギーや異物が眼に入ることでも結膜炎が起こります。

主な原因

異物の侵入や感染症など
原因はさまざま。

異物の侵入

ほこりや砂、ゴミや花粉、または目の周りの被毛などが目に入り、結膜が刺激されて炎症が起こる。

感染症

ウイルスや細菌に感染したことがきっかけで発症する。猫同士では容易に感染するため、多頭飼いの場合は隔離などの処置が必要。

その他、角膜炎や流涙症、ドライアイ(乾性角結膜炎)など、もともと発症していた病気が原因で結膜炎になることも。免疫力が下がりやすくなる寒暖差の激しい時期や、粘膜の防御力が下がりやすくなる空気が乾燥する時期など、季節的な要因によっても結膜炎を引き起しやすいので注意しましょう。

- 白目の表面が充血し、目を開けにくそうにしている
- 色付きの目ヤニや、粘り気のある目ヤニが出る
- 涙が大量に出る など

主な症状



予防法

治療せずにそのまま放置すると、眼球と結膜がくっついてしまい、手術をしなくては瞼が開かなくなってしまう場合も。早めに病院を受診しましょう。

診断と治療法

抗炎症剤や抗生物質、インターフェロンなどの目薬(点眼薬)を、原因に応じて処方されることが多いです。目の周りの被毛が入ってしまい炎症を起こしている場合は、周辺の被毛を綺麗にカットする処置をとることもあります。また、かゆみが強いと目をこすってしまうことがあるので、エリザベスカラーを装着して目を保護するケースもあります。

結膜炎の治療には、自宅での点眼が不可欠ですが、多くの飼い主さんが苦労しているようです。慣れるまでは、二人体制で、固定係と点眼係に分担して行うとよいでしょう。スムーズに点眼するには、まずは猫に恐怖心を与えないように猫の背後から近付いて、手のひらで顔をなでるなどしてスキンシップから始めるといいでしょう。



定期的に眼に異常が無いかどうか確かめることで、早期発見、早期治療につながります。感染症の場合はワクチン接種をきちんと行なうことで、症状を軽くできたり、ウイルス感染を回避することができます。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと

2号 (2ヶ月分) **無料!!**

